第二週 神の団体の戦士としての新しい人は、キリストを神のすべての武具の構成要素とする

啓示

Ⅰ 召会は花嫁の戦士であるという啓示

- エペソ第5章と第6章において、私達は、召会が花嫁であり、また戦士でもあることを見ます
  - エペソ第5章が啓示しているのは、召会がキリストの花嫁であって、彼のかたちをもって彼を表現するということです。
  - エペソ第6章が啓示しているのは、召会が団体の戦士であって、神の統治権のために、地上における神の権益のために戦うということです
    (こうして、創世記第1章26節における神の永遠の定められた御旨を成就します)
- 啓示録第19章にも、召会のこれら二つの面があります
  啓19:7-8彼女は輝く清い細糸の亜麻布の衣を着ることを許された…14そして天にある軍勢…白くて清い細糸の亜麻布を着て彼に従った。
  これは花嫁の婚宴の礼服が戦うために着る制服でもあることを指しています。

応用

Ⅱ キリストは神の武具の構成要素です

エペソ6:10-11最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい。神のすべての武具を身に着けなさい. 悪魔の策略に敵対して立つことができるためです.

A 主の中で－私達は意志を活用してキリストに戻り、**キリスト**によって戦う必要があります
- 神のすべての武具は、団体の戦士としてのキリストのからだ全体のためです。私達は、個人としてではなく、からだの中で、霊的戦いを戦わなければなりません

エペソ6:14-15ですから立ちなさい. 真理を腰に帯として締め、義の胸当てを身に着け、また平和の福音を確固とした土台として足にはきなさい.

B 真理の帯－私達が経験する**キリスト**を通して、私達の全存在が強められます
- 「真理」は、私達の生活の中の実際としてのキリストにある神、すなわち、私達の生活の中で、私達によって実際化され経験された神のことを言います。

C 義の胸当て －私達は**キリスト**の血によってきよめられた良心を持って、敵の訴えから守られます
- サタンの訴えに対するわたしたちの応答は次のようであるべきです、「わたしの完全さによってではなく、とがめのない良心によってでさえなく、小羊の血によってである。」

D 平和の土台－**キリスト**は神との平和と人との平和をつくられ、私達を確立しました
- もし私達が私達と神の間の平和、あるいは私達と他の信者たちの間の平和を失うなら、戦う立場を失います

エペソ6:16-17なおその上に、信仰の盾を取りなさい. それによって、あなたがたはあの邪悪な者の燃える火の投げやりを、いっさい消すことができます。
また救いのかぶとを受け取りなさい. さらにその霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を[すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい]

E 信仰の盾－神の言葉(キリスト)は信実です、神の御旨が必ず成就されることを信じます
- 燃える火の投げやりは、サタンの誘惑です、私達に対する神の心は常に良いのです。

F 救いのかぶと－**キリストは**私達の魂の牧者であり、私達の思い、思考を覆ってくださり、あの邪悪な者によって投げ込まれた消極的な思想に抵抗します
- 神の救いは私達のおおいです。そして、この救いは、私達が日常生活の中で経験する救うキリストです

G その霊の剣－神の言葉(キリスト)rhemaで敵を寸断します
- 神の武具の六つの項目の中で、その霊の剣だけが、外側の敵と内側の内敵を攻撃するためのものです

エペソ6:18どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい.

H うまずたゆまず祈る－主と一になり、**キリスト**を身につけて、武具を実際的に用いることができるようにします
- 祈りは、神の武具の七番目の項目と考えられます。祈りとは、恵みの御座に進み出るための道です。
  祈れば祈るほど、主と一であることをますます経験します。これは何というすばらしい褒賞でしょう！